

## 大学ポートレート運営会議（第3回）議事録

1. 日 時 平成27年10月26日（月） 15:00～17:00

2. 場 所 学術総合センタービル11階 1112会議室

### 3. 出席者

（委員）

麻生委員、岡本委員、相良委員、佐藤委員、鈴木委員、原田委員、日高委員、  
水戸委員、村上委員、山極委員、  
浅田兵庫県立大学理事・副学長（清原委員代理）、  
工藤大学基準協会事務局長（田中委員代理）

（専門委員）

二宮専門委員

（オブザーバー）

文部科学省：伊藤高等教育企画課高等教育政策室長

（事務局：大学評価・学位授与機構）

武市大学ポートレートセンター長、井田大学ポートレート教授  
鎌塚評価事業部長、小山田大学ポートレートセンター事務室長

（事務局：日本私立学校振興・共済事業団）

谷地私学経営情報センター長

### 4. 議 題

- （1）ステークホルダー・ボードの開催について
- （2）国際発信に関する専門委員会の調査審議の状況について
- （3）大学ポートレートによる教育情報の公表の状況について
- （4）大学ポートレートの広報活動について
- （5）その他

【鈴木議長】

ステークホルダー・ボードに意見等を伺う項目例につきまして、事務局から資料に基づいて説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料2-1「ステークホルダー・ボードに意見等を伺う項目例(案)」をご覧ください。ステークホルダー・ボードに意見を伺う項目例として4点を挙げさせていただいております。(1)公表・検索画面では、画面の構成、見やすさ、わかりやすさ、その他機能として追加すべきものについて、(2)公表・検索項目では、追加すべき公表の項目、あるいは検索画面において追加すべき項目について、(3)広報では、大学ポートレートの知名度を上げるための方策や工夫についてご意見をいただきたいと考えております。(4)その他お気づきの点としては、ステークホルダー・ボード委員の方のお気づきの点ということで、例えば、大学ポートレートの運営体制やさらなる利活用、大学の負担軽減等についてご意見をいただければと考えております。また、ユーザーの方からいただいているご意見についてもご紹介させていただいた上で、忌憚のないご意見をいただければと考えております。

ユーザーの方からいただいているご意見を幾つか紹介させていただきます。(1)公表・検索画面については、中学生が見てもわかるようにすべき、高校生向けの文体になっていない、民間のウェブサイトのほうが見やすく印象的である、というご意見をいただいております。一方で、すっきりしていて好意が持てるというご意見もいただいております。

また、自大学のホームページへのリンクだけになっている大学や情報が更新されていない大学もあることはよろしくないのではないか、というご意見もいただいております。加えて、最近のウェブサイトではどの大学も大きな写真を用いたりしており、同じようなデザイン、構成になってきているものの、大学ポートレートはそのようになる必要はない、というご意見もいただいております。この他には、システムの使い勝手の向上、デザインにもっとお金をかけるべき、官民を巻き込むべきというご意見もいただいております。さらに大学間の比較ができないのは致命的であるという厳しいご意見もいただいております。

(2)公表・検索項目については、いろいろな情報が載ると逆に対象が広がって焦点が絞れないものになってしまうのではないか、個々の大学、民間、大学ポートレートのそれ

それぞれのウェブサイトの役割分担が必要ではないかというご意見、大学ポートレートは高校1、2年生くらいの生徒を対象として大学でどのような勉強ができて、どのような教員がいて、どのような進路があるのかといった情報が欲しいというご意見、大学ポートレートではクリティカルなデータやランキングがなく影響力のあるものとなっていないというご意見もいただいております。また、簡単に検索して見られるようにしてほしいといった、検索機能の充実に関するご意見もいただいております。

(3) 広報については、フェイスブックやツイッター等のソーシャルメディアを活用すれば高校生に広がるのではないか、高等学校や受験産業には大学ポートレートの存在があまり知られていないのではないか、というご意見をいただいております。

本日は文部科学省からも中央教育審議会での大学ポートレートに関するご意見を資料としてご提供していただいております。資料2-2「中央教育審議会における大学ポートレートに関する主な意見」の説明につきましては、伊藤高等教育企画課高等教育政策室長よりお願いいたします。

#### 【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

資料2-2「中央教育審議会における大学ポートレートに関する主な意見」をご覧ください。中央教育審議会において認証評価の改善に係り大学ポートレートに関してのご意見も多数いただいておりますので審議の状況をご報告申し上げたいと思います。

資料2-2の上の枠囲いをご覧ください。現在、中央教育審議会大学分科会大学教育部会において、平成30年から始まる第3期の認証評価の改善に向けてご審議をいただいているところでございます。認証評価が中心ではありますが、大きくは大学の教育の質の保証ということで、質の保証を構成する観点からは大学の情報公開ということとともに、第三者評価としての認証評価の改善が大きな論点でございます。

大学ポートレートに関しましては、大学の情報の公開の促進のみならず、認証評価の改善という観点から、既に公表されている情報については大学の認証評価の準備時にできるだけ公表情報を活用して認証評価を効率化していくこと、また、大きくは大学の質の保証としての大学の情報の公開にも関連するというところで、多くのご意見をいただいているところでございます。

資料2-2の下の枠囲いのおり、大きく4つの観点でご意見をいただいているところでございます。

1点目として、大学ポートレートを認証評価でも活用できるようにするためには、情報の項目の観点と1つの項目に関する経年の情報の量という観点から見て一層の充実が必要ということを認証評価を実施していただいている評価団体及び大学教育部会の委員からご指摘いただいております。

2点目として、認証評価と情報公開をより関連させていくべきではないかということで、積極的にその情報の項目の充実が必要であるという前提はありますが、認証評価と大学ポートレートを結びつけて活用していくべきではないかという前向きな観点でご意見をいただいております。

3点目として、大学ポートレートの情報の掲載の仕方につきまして、大学の情報の公開という観点からも各大学の基本情報を最初に一覧的に見られるような整理が必要なのではないかというご指摘もございました。

先ほど、高校生などの関係者からのご意見もございましたけれども、4点目として、大学ポートレートの改善に関して、社会が求めている内容を踏まえて、掲載すべき情報を充実していくべきではないかというご意見もいただいているところでございます。

このような観点も踏まえまして、今後大学ポートレートの項目の充実等についてご審議いただければと思うところでございます。

#### 【山極委員】

4番目のところですが、社会とのミスマッチについて、企業でどのような人材が欲しいということに関する情報というのは一般に共有され、公表されているのでしょうか。

#### 【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

企業が求めるそのような情報は、公式に確たるものがあるというわけでは現時点ではございませんが、産業界の委員からのご指摘もございました。例えば、大学における卒業判定や進級基準、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、どのような方針で人材育成しているのかという観点からの情報も必要とのご指摘もございました。

#### 【山極委員】

それは十分わかっているのですが、文部科学省としては、産業界の視点というものを生

かす上では、産業界がどのような人材を欲しがっているのかという情報をしっかり与えてくれないと。学生がどのような会社に行きたいか、どのような職業を選びたいかについては、大学が情報を集めているのですが、統一的なものがないし、どこを窓口にしたらよいかわからないのです。文部科学省にはそのような情報を集めて大学と連携させていただきたいのです。企業が大学の出した学生の情報を見るのを待っている状況はおかしいと思います。

学生個人がいろいろな情報を集めて、どのような進路を選びたいかということを経早くから教員と相談するといったシステムをつくらなければならないと思います。大学ポートレートはその一環ですけれども、大学ポートレートに見合うような企業の情報、あるいは省庁の情報等をきちんと集めたシステムを構築していただきたいです。

#### 【原田委員】

短期大学の立場として申し上げますと、中央教育審議会が求められているデータというのは各団体のウェブサイトには十分載っております。それを大学ポートレートという情報を提供するウェブサイトで大学の特色を出そうとしても実際のところは不可能かと思えます。中央教育審議会が求められているものは、全てはその大学の責任でもって公表しているわけですから、ステークホルダーはそちらをご覧くださいければよろしいのではないかと思います。大学ポートレートについては、大学や短期大学が教育情報の公表の部分を正確に社会に周知するデータベースとして機能させれば十分だと思います。色づけをすることになると、各学校がいろいろなものを持っていますので、わかりにくいものになるのではないかと考えます。

#### 【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

まず社会に向けて、大学ポートレートの項目の充実というところで、どのような項目を充実していくのかというところは、大学ポートレートの充実にあたってステークホルダー・ボードに企業の方も入っていただき、観点を提示していただいて、全体の議論の集約ができた部分を順次改善に生かしていくということで、改善に向けて検討していただければと思っております。

なお、大学ポートレートにおいて、リンクが張られているのみというような状況がございます。必要な情報につき責任を持って提示するといったときに、リンクのみということ

だと必要な情報も伝わらないというようなこともございまして、そのような改善は大学ポートレートにおいて必要なのではないかというようなご意見もあるかと思っております。そのような観点も含めてご審議をいただければと思っております。

#### 【水戸委員】

ステークホルダー・ボードでは、大学ポートレートにおいていわゆるミスマッチが生じないようにするために産業界代表の方々から有益なご意見をいただいて、本運営会議で取り入れていくということだろうと思います。

日本経済団体連合会や経済同友会でいろいろな調査がございまして。大学の教育に何を求めているのかについて、企業側は例えばこのような項目を大学で教育してほしいと考えている一方で、大学教員がアンケートを行うと全く逆の調査結果が出るというのが1つのミスマッチなわけです。そのため、企業側は大学に対して本当に大学4年間で企業が必要としている人材を教育し育成しているのか、ということが議論されているわけです。

産業界からの委員にはミスマッチが生じないような意見を述べていただいて、本運営会議ではそれを反映して、大学ポートレートの内容を充実させてミスマッチが生じないようにしていくことだろうと思います。

#### 【山極委員】

全くそのとおりだと思います。日本経済団体連合会や経済同友会、個々の企業の方々にお会いしますと、ミスマッチは生じていないとおっしゃいますし、そのようなことは言っていないとおっしゃるのです。社会とミスマッチしていると文部科学省が言われるために大学は振り回されているのです。

社会とミスマッチしているということを言われるのであれば、しっかりと全ての大学に共通するような改善案を示していただき、産業界の代表的な意見を示して、大学の味方にもなっていただきたいと思います。ミスマッチが生じないように両方の立場を踏まえた上でご意見を言っていただきたいと思います。ステークホルダー・ボード委員の皆様にはよい方向へ向けていただくということをしていただきたいと思います。

#### 【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

こちらは一方向的に意見をお伝えするというのではなく、対話が必要だと思っております。

す。そのような意味で、中央教育審議会でも大学関係者や企業の方にも加わっていただきながら、慎重なきちんとした議論の積み重ねの上で方針を出していくというプロセスを踏んでおりますし、今回のステークホルダーに関しましても、ステークホルダー・ボードでの意見を大学関係者が集まる本運営会議でまとめていただくという丁寧なプロセスが必要だと思っております。ご指摘は他のことにも通じるお話だと思います。そのようなことを踏まえて今後も対応していきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

#### 【麻生委員】

大学ポートレートに関しましては、参加は任意ですが、機関別認証評価は法令で義務づけられています。それから、大学ポートレートで取り扱っている情報に関しましては、教育情報の9項目は法令で公表が義務づけられています。それらの整理をしておかないと、大学ポートレートが成り立たず、いろいろな差が出てくるというのが現状だと思っております。

中央教育審議会でそのような議論がなされている中で、大学ポートレートを義務化すべきと言うわけではないのですけれども、義務化されていない大学ポートレートを認証評価で活用するというには無理があるのではないかと感じます。

#### 【武市大学ポートレートセンター長】

大学ポートレートを運営する立場から、ご議論されている事柄につきまして、お願いがございます。産業界からの要請、あるいは求めている内容どうかというふうなことにつきましては、大学ポートレートに書き込むことができるように用意したほうがよいというご議論は理解できますが、今ご指摘ありましたように、その内容については各大学に作成していただかなければなりません。大学に作成を促すことはできても、大学ポートレートは大学が情報を提供する場を用意しているにすぎませんので、大学ポートレートセンターが作成することはできないのです。現在でも進路という項目はございますし、そこに表示される標準的なものに不具合があれば、任意の記述ができる場を用意することも考えられます。進路以外のところについても任意に記述できるボックスをそれぞれ用意していますので、あくまでも大学から情報提供していただくということが前提で、大学ポートレートのシステムの運用だけの問題ではないということをご理解いただければと思います。

**【鈴木議長】**

大学ポートレートを始めるときに、小さく生んで大きく育てるのだということを繰り返し申し上げて、産声を上げているわけですが、委員からいただいているご意見は、小さく生んで大きく育てるというプロセスでいろいろなご意見をいただいているということですので、当然、このようなご意見もいただきながら、大きく育てていかなければいけないと議長としては思っております。

大学ポートレートは義務ではないが認証評価は義務であるというギャップがあるところのご発言もありましたけれども、認証評価は義務ですので、大学ポートレートに参加されていない大学としては認証評価に資料をそろえていただかなければいけないということになるかと思えます。

**【浅田兵庫県立大学理事・副学長】**

議論が広がっているような気がします。中央教育審議会での大学ポートレートの議論というのは、あくまで認証評価制度の改善の文脈の中での議論だと思います。だから、その観点からいろいろな意見が出てきているので、取り入れられるところは取り入れたいと思うのですが、ここでの議論とは文脈が違うと思います。

ステークホルダー・ボードを立ち上げるにあたっての議論をするならば、先ほど外部からの意見を幾つか示していただきましたけれども、現状の大学ポートレートの内容や機能に皆様は満足されているのでしょうか。先ほど小さく生んで大きく育てると言われましたが、育っていないという危機感を本運営会議で共有して、その意識のもとでステークホルダーに問かけないといけないのではないかと思います。ステークホルダー・ボード委員は外部の方ですが、高等学校の視点、企業の視点、あるいは進学関係の情報の視点からは、今の大学ポートレートがよいものだと言われる方はおられないのではないかと思います。その危機感がまず必要ではないかと思います。

では、どうすべきなのかというのが、まさにここで議論すべきことだと思います。中央教育審議会は認証評価制度という文脈で言われているので、話が広がっているような気がしますし、外からの意見をすべてのみ込めない中で、本運営会議としてどのように責任を持った議論をして、ステークホルダー・ボードから意見をいただくかを中心に議論したほうが良いのではないかと思います。



**【鈴木議長】**

それでは、ステークホルダー・ボードでは、事務局から説明のあったステークホルダー・ボードに意見等を伺う項目例（案）に沿ってご意見を伺うことにさせていただければと思います。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

認証評価への活用については、大学ポートレート（仮称）準備委員会の場でも、大学の負担軽減の1つとして、今後取り組んでいく課題として挙げられております。一方で、現在、中央教育審議会でも認証評価制度の見直しの議論もされておきまして、各認証評価機関におきましても、第3サイクルに向けて評価の基準あるいは評価方法の見直しに取りかかっているところかと思っております。そのような状況等も踏まえつつ、大学ポートレートとしてどのような対応ができるかということについては、引き続き検討させていただきたいと考えております。

**【山極委員】**

これはとても重要な議論だと思います。大学ポートレートが認証評価に利用されるということになると、その関係が密接になり、認証評価による情報の出し方が出てくる可能性もあるわけです。そうすると、ステークホルダーに文部科学省が送らなくちゃならなくなる。そもそもそういうものではありません。ユーザーというのは企業や大学進学希望者等、大学進学希望者等の親であるわけです。そのような方々に必要な情報を出すのが本来の大学ポートレートの目標なので、そこを外さないようにしていかないと、質が違うものになっていく可能性があると思います。

**【鈴木議長】**

その点は非常に重要なことでありますので、認識としてはこれを使う人たちがどのような利用の価値があるかということを中心に据えなければいけないと思いますので、この点は確認しておきたいと思っております。

特にご異議がなければ、原案に沿ってご意見を伺うということにさせていただきたいと思っております。そして、本日のこれまでの審議でいろいろご意見いただきましたけれども、大

学ポートレートステークホルダー・ボード設置要項第5条第1項の規定に基づきまして、本運営会議としてステークホルダー・ボードの招集を主査に求めたいと思いますが、ご異議はございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

#### 【鈴木議長】

それでは、ステークホルダー・ボードの開催をお願いしたいと思いますので、事務局には開催に向けた対応をよろしくお願いいたします。

続きまして、国際発信に関する専門委員会に関してでございます。国際発信に関する専門委員会につきましては、本運営会議（第3回）において設置をご了承いただきました。大学ポートレートによる教育情報の国際発信の検討については、グローバル化の進展という環境の中で、スピード感を持って進めていくことが期待されているものでありまして、平成27年度中に国際発信に関する専門委員会での審議結果を本運営会議にご報告いただくこととしているところでございます。

まず、国際発信に関する専門委員会の専門委員の構成につきまして、資料3-1「国際発信に関する専門委員会専門委員名簿」をご覧ください。本運営会議（第3回）で決定された参考資料2「国際発信に関する専門委員会の設置について」の2. 構成員等（2）で、「専門委員会に属すべき委員及び専門委員は運営会議の議長が指名する」と規定されており、専門委員の方に調査審議をお願いしているところです。主査は、比治山大学・比治山大学短期大学部学長の二宮専門委員をお願いしています。本日は調査審議の状況について、二宮主査よりご報告いただきますので、よろしくお願いいたします。

#### 【二宮専門委員】

国際発信に関する専門委員会の主査の二宮でございます。私から概要を報告した後に事務局から詳細を報告していただきますので、よろしくお願いいたします。国際発信に関する専門委員会では、国際発信の項目を専門的に検討するようにとのことでもございましたので、大学ポートレート運営会議と国際発信に関する専門委員会との役割分担について確認しながら、外形的なことは大学ポートレート運営会議、国際発信する項目や内容等については専門的な観点から国際発信に関する専門委員会が担当するという理解の下、誰を対象

にどうすればよいのかについて、2回にわたり検討してきました。机上配布資料の「国際的に発信にすることが期待される教育情報（原案）」は専門委員会でのご意見を事務局にて整理したものでございます。

平成27年度末までに報告をすることになっておりますので、今後も基本的な考え方、方向性を共有しながら審議を行い、適切な報告をできればと思っております。

先ほど誰を対象とするのかという話もありましたが、国際発信の項目の検討にあたっては、当初は誰を対象とするか、また、研究の側面や国際産学連携の側面など様々な形を考えるべきという意見もありました。しかし、当面は、資料3-3「国際発信項目検討にあたっての基本的考え方」のように、学部の留学生、我が国では大学院が大切であるという面もありますので、大学院の留学生、また、日本のかもしれませんが、研究留学生という形で外国人留学生を意識した教育情報の提供について、各大学がそれぞれの特色を生かしながら主体的、積極的に提供していただけるであろうことを期待できる項目として原案を作成しております。

事務局から詳細の報告をお願いいたします。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

資料3-2「国際発信に関する専門委員会での検討状況について」をご覧ください。これまでの国際発信に関する専門委員会での検討状況を整理したものです。

国際発信に関する専門委員会（第1回）につきましては、大学ポートレート（仮称）準備委員会でとりまとめられた大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理（その2）や国内外の教育情報の公表の状況を説明した後にフリーディスカッションを実施していただきました。

国際発信に関する専門委員会（第2回）におきましては、日本学生支援機構が行っている留学に関する情報発信の状況と英語を母国語としないアジア圏、ヨーロッパ圏における留学生向けの教育情報の発信状況を説明した後、国際発信に関する専門委員会（第1回）でのフリーディスカッションを踏まえて国際発信項目検討にあたっての基本的考え方を再確認していただいた上で国際的に発信することが期待される教育情報の項目についてご審議いただきました。

資料3-3「国際発信項目検討にあたっての基本的考え方」をご覧ください。二宮主査からのご報告のとおり、国際発信の意義・目的につきまして、大学の目的は様々で、国際

発信の必要性も発信しようとする情報の内容も大学によって異なるものですが、国際発信は総じて各大学の国際的な評価の向上、優秀な学生・教員の獲得や外国の大学との組織的・継続的な教育連携の加速に寄与するものでございます。その上で、大学ポートレートにおいては国公私共通の枠組みとして、閲覧者が必要な情報に到達しやすいものとする事で、日本の大学教育全体に対する国際的な信頼性の確保や評価の向上、質保証の促進に資することを中心的な意義・目的とさせていただきます。

国際発信の対象につきましては、国際発信の必要性は大学により様々でございますけれども、国際発信に関する専門委員会としましては、時間的制約がある中で検討を進めるために当面は留学生の受け入れに対する情報発信としてふさわしい項目を優先して検討するとしております。

検討の進め方につきましては、日本の大学に留学を希望する外国人学生に対して、大学が発信することが望ましい項目を網羅的に検討するとしております。そして、それらの項目を大学ポートレートでどのような方法で発信するか、また、大学や既存の情報発信のウェブサイトとの役割分担については、本運営会議でご審議をいただくこととしております。

このような基本的な考え方に基づきまして、国際発信に関する専門委員会においてご議論いただいたものが机上に配布しております「国際的に発信することが期待される教育情報（原案）」になります。基本的な項目立てにつきましては、国内に向けて公表している大学ポートレートの項目に、留学生が必要とする情報を付け加えた内容になっています。大学単位と学部・研究科単位をあわせて134項目を原案として整理しております。国際的に発信することが期待される教育情報項目（原案）につきましては、専門委員の皆様から引き続きご意見をいただくことになっておりまして、次回の国際発信に関する専門委員会で議論を深めていただくこととしております。

#### 【麻生委員】

国際的に発信することが期待される教育情報（原案）において、学部正規学生総数、学部・研究科単位で発信する情報という名称があり、これから英語化されていくと思いますが、短期大学においては学校教育法108条第4項で学部を置かないものとする事から、このような表現が使われると短期大学はあてはまらないこととなりますので、短期大学も含めた文言の使い方をいただければと思います。

**【小山田事務室長】**

ご意見を踏まえまして、留意させていただきます。

**【原田委員】**

国際発信ですから英語を用いると思いますけれども、最近の文部科学省からの書類に専門学校の英語表記として College という単語を用いるようにというものがあります。また、専門士には Diploma、高度専門士には Advanced Diploma という単語を用いていて、修士であるかのような感じになっています。これらは称号なのだという理解の下に日本国内で通用する英語表記ではなく、海外の方にしっかりと理解される国際通用性のある英語表記として進めていただきたいと思います。

**【鈴木議長】**

国際発信に関する専門委員会には、海外からの方も加わっていただいておりますので、このようなことに関しては意識を持って検討していただきたいと思いますと伝えたいと思います。

それでは、ご意見がありましたら本運営会議で取り上げさせていただくこととして、国際発信については、引き続き調査審議を進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、大学ポートレートによる教育情報の公表の状況についてです。平成 27 年 3 月 10 日（火）から国公立全体での教育情報の公表が開始されております。公表が開始されて半年ほど経過いたしておりますけれども、ここまでの公表の状況について事務局から説明をお願いします。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

資料 4-1 「大学ポートレート参加状況」をご覧ください。平成 27 年 10 月 1 日現在の大学ポートレートへの参加状況については、国公立全体で 90%を超える参加率となっております。未参加の大学に対しては、参加の呼びかけをしていきたいと考えています。

続きまして、資料 4-2 「公表画面へのアクセス数について」をご覧ください。平成 28 年 10 月に私学の情報が公開され、平成 27 年 3 月に国公立全体での公表を開始したところですが、これまでのアクセス数は、合計で約 425 万件で、月平均で約 34 万件となっております。

**【水戸委員】**

アクセス数は多いと言えるのでしょうか。例えば、アメリカや英国にも大学ポートレートと同じようなものがあります。大学の参加率も関係すると思いますけれども、そのようなものと比較してどうでしょうか。

**【鈴木議長】**

何か比較するデータはございますか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

事務局では現在そのようなデータは持ち合わせておりません。

**【水戸委員】**

7、8、9月とアクセス数が増えている理由は何でしょうか。

**【鈴木議長】**

40万件になっています。

**【水戸委員】**

私立は公表を開始した平成26年10月に約47万7,000件で、翌月は約33万3,000件に落ち込んでいます。平成27年3月には国公立が公表を開始して約32万6,000件で、7月から40万件台になっていて、国公立の大学と短期大学は総数で約1,100校あるので、アクセス数は多くはないように思います。会議の冒頭に発言があったように、大学ポートレートを本当に使えるものにするためにどのようにしたらよいのかということは本運営会議で検討するものとして、どのように判断したらよいのかというところを知りたかったので。

**【浅田兵庫県立大学理事・副学長】**

平成26年10月から平成27年2月までは日本私立学校振興・共済事業団のシステムを通して公表している私学の情報へのアクセス数を計上しているのだと思いますが、平成27

年3月からは大学評価・学位授与機構で構築したウェブサイトへのアクセス数のみを計上しているのでしょうか。それとも、大学評価・学位授与機構へのアクセス数に日本私立学校振興・共済事業団へのアクセス数が含まれているのでしょうか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

後者です。3月以降はそれぞれで計算したものを合算しています。

**【浅田兵庫県立大学理事・副学長】**

合算しているということは国公立の公表を開始してから8万件ほどしかページビュー数が増えていないと解釈したらよいわけですね。そうになると、かなり悲惨な状況という認識でよろしいのですか。日本私立学校振興・共済事業団のウェブサイトには直接にアクセスされていると思いますので、大学評価・学位授与機構が新たに公表を開始して、あまり増分はないという状況ですね。しかも、ページビューというのは1ページ見たら1カウントです。おそらく、大学評価・学位授与機構の内部やメンテナンスでもアクセスするでしょうから、外部から見られたアクセス数はより少ないと思いますけれども、そのような詳細なデータもお持ちでしょうか。

**【武市大学ポートレートセンター長】**

大学評価・学位授与機構では、入り口としての国公立共通の画面を構築しています。その一方で、ご指摘のように日本私立学校振興・共済事業団で運営されているシステムを通して公表している私学の情報へ直接にアクセスすることもできる状況です。

ここに示しましたのはその共通にデータの収集ができる部分として、ページビューとして表示したものでございます。大学ポートレートセンターにおきましては、国公立の公表画面へのアクセスについては、例えば、新たに何人がアクセスしたか、また、アクセスした人が1回あたり何ページにアクセスしたかというデータもとっております。ご指摘のように、アクセスの人数やページビュー数が満足できるものではないということは認識しております。また、そのようなデータの提供の仕方については現在検討しておりますが、これまでのデータはございます。また別の機会があればご報告はさせていただく予定です。

**【浅田兵庫県立大学理事・副学長】**

詳細なデータをお持ちだということなので、また分析していただければいいと思います。アクセス数というものをどのように見るかについては、例えば、アクセスした人が平均で10画面を開くとすると、アクセスした人数はページビューの10分の1に減ることになります。これで本当に受験生、進学指導の先生、保護者も含めて主なステークホルダーという方々に提供できていると言えるのかが疑問です。これから受験シーズンを迎えますので、そこで数値が劇的に上がればよいでしょうが、数値目標は設定されているのでしょうか。大学入試センター試験の受験者数はわかるわけですから、その数値ぐらいいは超えないと意味がないという印象を持ちます。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

事務局としてアクセス数の明確な数値目標は設定しておりません。ただいまのご意見等も踏まえて、数値目標の設定が必要ということであれば、検討を進めていきたいと考えています。

なお、先ほど海外の教育情報サイトのアクセス数についてのご質問をいただきまして、人口規模等の違い等もあり一概に比較はできないかと思いますが、アメリカのカレッジナビゲーターでは月平均で500万ページビュー数ということです。

**【水戸委員】**

米国のカレッジナビゲーターの参加校数はどれくらいあるのですか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

約7,000校です。

**【麻生委員】**

大学ポートレートのトップ画面にアクセスしますと、あなたがこのサイトを訪問した目的を教えてくださいというアンケートが表示されます。表示のボタンを押せば次に進めるようになっていますが、回答をチェックして送信ボタンを押すと訪問した目的が収集されます。収集状況はいかがでしょうか。

**【武市大学ポートレートセンター長】**



アンケートについては、7月末から訪問者の属性を把握できるように設定しています。最初にアクセスしたときのみ表示され、同じ機器で2回目以降にアクセスした場合には表示されないようになっています。ご指摘のように表示を閉じることで属性を示さずにアクセスすることもできております。どのくらい的人数が属性のアンケートに協力していただいたかということもわかっておりますし、4種類の属性のデータも取っておりますので、初めて訪問した人が受験生なのか、大学の関係者なのかはデータとしてとっております。

これについては、トップ画面にアクセスした人への調査として、私学の情報に直接にアクセスされた場合のデータは取れてはおりません。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

大学ポートレートセンター長の説明のとおりです。アンケートは、大学進学の情報収集、大学院進学の情報収集、進路指導の情報収集、その他大学情報等の収集と、4つの区分を設けておまして、回答数は回答いただいた方のみとなりますので回答の割合を報告させていただきますと、大学・大学院進学の情報収集が35%、進路指導の情報収集が8%、その他大学情報等の収集が57%となっています。

**【原田委員】**

私学の情報の公表が開始されたのが平成26年10月で、約47万7,000件というページビュー数となっています。大学関係者のデータアップロード後の確認のアクセスの数も47万7,000件に含まれているのでしょうか。そうすると、11月の33万3,000件、12月の37万件は大学関係者がアクセスしている数値かと思われませんが、いかがですか。

**【谷地私学経営情報大学ポートレートセンター長】**

日本私立学校振興・共済事業団のシステムが稼働したときにはデータ確認のためのアクセスがあったのは事実だと思います。11月、12月はそのような状況が続いていた可能性は高かったかと思います。

**【原田委員】**

そうすると、アクセス数については、確認がほとんどなのではないかという想像をすることができますけれども、いかがですか。

**【浅田兵庫県立大学理事・副学長】**

資料4-1「大学ポートレート参加状況」で、公立大学の参加割合が81.4%となっていて、86大学中70大学が参加しています。公立大学は大学ポートレートに関しては強い関心を持っていて、それ以外でも情報公表には積極的に取り組んできました。それにもかかわらず、このような参加割合となっているのは、1つは有料化されたこと、また、大学ポートレートがどのくらいの機能を持って役立つかわからないというところで躊躇しているところがあるのだと思います。資料4-2「公表画面へのアクセス数について」の結果を見たら、参加割合は減るのではないかという危機感を持ちます。この程度の数字で関係者しかアクセスしていないようなウェブサイトを、お金を払って継続する価値があるのかというのが率直な感想です。先ほど参加を呼びかけるという言い方をされましたけれども、むしろ大学の方から参加させてほしいという問い合わせがくるというのが本来の姿だと思います。お金を払ってでも参加しておく価値があり、いろいろなところに注目されて、情報も広く伝わるという機能が本来あるべきで、まだそこに到達していないというのが現状認識ですが、どのように改善していくかというところの議論がしっかりされていないような気がします。

しっかりとした情報の公表、内容の充実、機能の充実がなされる必要があると思います。ステークホルダーに意見を聴くとか国際発信するという前の重要なところがまだ不十分であり、そこを固めて充実させる議論が必要ではないかと思います。

**【武市大学ポートレートセンター長】**

大学ポートレートセンター長として、ご指摘の点に責任があると認識をしております。これまでも大学ポートレートセンターでは分析も含めて取り組んでいるところでございますが、大学ポートレート（仮称）準備委員会で重視するステークホルダーとして示されたのは大学進学希望者やその保護者等であるということで、そちらで示された公表項目に従って大学ポートレートを構築しているわけでございます。

しかしながら、大学進学希望者等は訪問者の3分の1ということですので、公表項目が目的に合っているのかどうか、見直しあるいは検討をする必要があるのではないかと感じております。先ほど申しあげましたように、各大学には公表情報の入力を求めておりまして、各大学で工夫していただきながら公表しているわけでございます。例えば、三つの

ポリシーに関しても学部・研究科ごとにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを用意することは新たな負担を課したことになっております。

例えば、各大学が用意していたものを一定の分量で表現していただくということもあり、大学によっては負担の関係もあって、十分ではない部分もあろうかと思えます。それを充実していただくと同時に、大学進学希望者等に対して目的を達しているかどうかの分析を進めて、場合によっては公表項目についても見直しをするという工夫も必要かと感じております。本運営会議でも運営上の留意点やご意見をいただければ、それに基づいて大学ポートレートセンターでも実現してまいりたいと考えております。

#### 【山極委員】

高大接続改革に取り組んでいる中で、高等学校教育と大学入学者選抜について、大学、官民が一体となって進めるということで、大学入学者選抜を中心として、平成 32 年の実施を目指しております。今まで大学の情報は教育産業の方が持っていました。各高等学校でも独自にそれを集めて、受験生にそのような情報を提供していたところがあり、大学ポートレートを見なくても、高校生は情報を入手しておりました。ステークホルダー・ボード委員に高等学校関係者がおられますから、内容については詰めていただけると思うのですが、大学入学者選抜が変わっていくことと連動しながら、偏差値重視ではなくて、受験生が本来望むべき情報をどのように提供したらよいのだろうかと思えます。

大学ポートレートはそのようなものを追求していると誇れるような内容の設定を大学ポートレートセンターが主導して提案していただくのがよいかもしれません。大学でも考えておりますけれども、膨大な資料を作らなくてはいけませんから、多くの人手が必要になります。予算も少なく各大学は苦勞されていると思えますし、そのようなことを高等学校や教育産業に呼びかけていただき、大学とつなぐことのほうが将来性があるという気がしました。

#### 【武市大学ポートレートセンター長】

ご指摘の件に関して、あるいは先ほどの国際発信のことについてでございます。国際発信の項目を列挙していただいておりますが、個々の項目においては既に他のウェブサイト等で公表されているものとの重複もでございます。教育産業界で既に情報を出しているもの

もごさいます。また、大学ポートレート（仮称）準備委員会等でも指摘されましたが、各新聞社から各大学へ行われるアンケート調査の負担感をなくすにはどうするかということで、大学ポートレートのデータをどのように活用できるかということも社会からは求められることになろうかと思えます。

大学ポートレートで収集したデータは大学のご協力で質を伴って得られていると思えますが、全てを大学ポートレートでカバーできるとは言えませんので、関係するウェブサイト、運営者、あるいは十分な情報を持っているところと連携しながら、それをもとにしてどのようなかたちで提供すると大学ポートレートを生かせるか、また、利用者から見て使い易いかという工夫も含めて案を用意させていただければと考えているところです。分析を重ね、本運営会議でもご意見をいただきながら運営していきたいと考えております。

#### 【工藤大学基準協会事務局長】

大学進学希望者等が大学を選ぶときにまず大学ポートレートを見るように持っていかなければいけないと思えますが、実態としては大学のホームページに直接にアクセスしているのではないかという気がします。例えば、大学ポートレートの最初の画面で、大学進学希望者等がどのようなことを要求しているのかについて分析をされたほうがよいのではないのでしょうか。例えば、共通検索画面で課程区分やキャンパスの所在地などのチェック項目がありますが、そのような基本的なことよりも、大学進学希望者が求める情報をトップ画面から検索できるようにしていかなければ、大学進学希望者等は大学ポートレートに入りにくいのではないかという気がします。そこは工夫されるとよいと思えます。

#### 【浅田兵庫県立大学理事・副学長】

大学進学希望者等を対象にするとして、既に民間の進学情報のウェブサイトが充実していて、多くの方はそれを使いますし、進路指導の先生もそれを使って合否の予測などをしているのが現状です。そこに勝負をかけようとしているのか、それとのすみ分けをしようとしているのかで違うと思うのですが、本質は大学ポートレートに何の価値があるかということかと思えます。大学ポートレートにはいろいろな大学の情報が詰まっていますけれども、各大学のウェブサイトではより豊富な情報を載せているので、関心があればそちらにいきます。入り口として大学ポートレートにアクセスしたときに他にない価値ある情報があるのでしょうか。民間の視点で考えればアクセスしてもらうことに意味が

ありますので、繰り返してアクセスしたくなる魅力ある情報を公表していかなくてはいい  
ないです。大学ポートレート（仮称）準備委員会でも発言しましたが、1つのポイントは、  
情報の質の高さを強みにすることだろうと思っています。不確かな情報であったり間違い  
があったりするものに比べて、大学ポートレートは公式のものだから正確であるというこ  
とを強みにできると思います。中央教育審議会でも大学ポートレートは大学が自由に書い  
ていて信用できないという発言があるようですが、そのようなことを言わせないだけの質  
の高さを強みにしていただきたい。また、分析ができないと意味がないと思います。単に  
情報を公表しているだけならば各大学のウェブサイトに行けば済みますので、大学ポート  
レートにしかない情報をどのように生み出すかも考えていただきたいと思います。

以前からあった複数の大学や学部を並べたいという要求をやらないということならば、  
高いハードルになりますけれども、それを超える魅力をどのようにして出すかを考えない  
といけないと思います。

#### 【武市大学ポートレートセンター長】

比較については、現在のところ大学ポートレート（仮称）準備委員会の決定を受けて比  
較しないことにしている状況でございますので、本運営会議でご議論いただければ、大学  
ポートレートセンターでも用意できます。それから、データの質については質の確保はで  
きていますし、学校基本調査等も含めて大学から確認いただいたデータを収集し  
ております。大学ポートレート（仮称）準備委員会でもデータの活用については先送りにな  
ったという印象を持っておりまして、大学ポートレートセンターでは分析の手法やその  
公開方法も含めまして調査を進めているところでございます。その状況についてもご報告  
させていただきながら、公表のあり方も再検討の時期が来ればお願いしたいと考えており  
ます。

#### 【山極委員】

近い将来、重要になるのは国際的な視点です。留学生を増やすようにと言われており、  
海外に進出する目標を持っている大学は多いと思います。ただ、海外の学生にとってはあ  
まりにも情報が少ないのです。学生を集めるプロがアメリカにもイギリスにもたくさんい  
て、そのような人たちが実際に学生をリクルートとする時代になっています。日本の大学  
がどのような目的でつくられ、どのような種類の大学があつて、どのような道が開かれて

いるのかという基本的な情報が海外の学生にはないのです。個々の大学はいろいろ発信していますし、拠点を設けて取り組んでいるところもあります。選択ができるような情報はここにあるだろうと思います。日本の大学はいろいろなウェブサイトがあり、しかも日本の学生に対して各大学が努力してウェブサイトをつくっていますから、大学ポートレートは総合的な情報の窓口程度にしかならないかもしれません。海外の学生にとってはとても重要で、ニーズとしては高まっていくと思いますので、時間をかけずに国際化を実現していただきたいと思います。

**【相良副議長】**

ご議論を伺って感じたことですが、先ほどもご発言がありましたが、大学ポートレート（仮称）準備委員会でとりまとめられたことを尊重してきたということは、もちろんそうだったのだろうと思いますが、もし可能なら、例えば、ステークホルダー・ボード委員または国際発信に関する専門委員会の専門委員と本運営会議の委員が自由な立場で意見交換をする機会をいただければよいと思います。参加できる人が参加して、自由な形で意見交換をする機会を持てると風通しがよくなるように思います。

**【鈴木議長】**

例えば、ステークホルダー・ボード委員または国際発信に関する専門委員会の専門委員に本運営会議に来訪いただく、あるいは逆の場合もあるかもしれませんけれども、そのような機会を設けると、風通しがよいと同時に、発想が得られるのではないかと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

大学ポートレートの広報活動のご報告について、事務局から説明をお願いします。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

資料4-3「広報活動の取組状況について」をご覧ください。これまで高等学校関係者の会議での大学ポートレートの説明、報道機関や教育産業の情報誌への記事掲載、教育委員会や高等学校関係団体へのチラシの配布、高等学校における進路指導のための副教材の編集協力ということに取り組んでまいりました。本日机上に配布しているチラシについては、今後、教育委員会を通じて各高等学校へ配布していただいたり、予備校や各種進学説明会の場においても配布していきたいと考えております。

ユーザーからのご意見でも、大学ポートレートの存在がまだ高等学校に浸透していないとのご意見もございましたので、引き続き高等学校に対する広報を進めてまいりたいと考えております。

ご報告は以上でございます。よろしくお願いたします。

#### 【鈴木議長】

事務局としても今までいろいろなご意見をいただいておりますので、利用者の拡大に向けて広報活動に取り組んでいくということでございます。

それでは、事務局としての取組も大切でございますし、また、大学ポートレートセンターと日本私立学校振興・共済事業団が連携して、積極的に取り組んでいただくということも重要ということでもあります。そのような取組に加えまして、大学ポートレートは大学コミュニティの自主・自律的な取組ということもございますので、大学ポートレートに参加されている各大学あるいは大学団体におかれましても、例えば各々のウェブサイトに大学ポートレートのバナーあるいはリンクを張っていただくなど、既にご協力いただいているところもございますけれども、引き続き広報活動へのご協力をよろしくお願したいと思っております。

#### 【水戸委員】

資料2-2「中央教育審議会における大学ポートレートに関する主な意見」で、認証評価と大学ポートレートを結び付けることが必要ではないかという文言がありましたが、これについて新たに議論や検討するようなことはあるのでしょうか。

#### 【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

参考資料1「大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理（その2）」をご覧ください。9ページに大学評価への活用ということで整理したものがございます。認証評価への活用につきましては、ワーキンググループにおける検討結果の最初の白丸の第2段落に、「各評価機関においても、大学ポートレート（仮称）の情報を評価に適切に活用できるよう、評価のために必要な」云々とありまして、そのような視点から積極的に検討されることが期待されるということになっております。したがって、大学ポートレート運営会議として認証評価への活用を主体的に議論するというよりは、各評価機関の取組に期待す

るということになっており、これを踏まえて、大学ポートレートへの活用については、認証評価機関で構成される認証評価機関連絡協議会で議論が開始されたばかりでして、事務局としては、そちら、あるいは各評価機関が中心となってご検討いただくことではないかと考えているところです。

**【鈴木議長】**

今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

資料5「今後のスケジュール（案）」をご覧ください。大学ポートレートに係るスケジュールといたしましては、ステークホルダー・ボードを11月から12月に開催し、大学ポートレートの運営に関してのご意見をいただくこととしております。また、国際発信に関する専門委員会については、11月26日（木）に第3回の会議を開催し、国際発信に関する専門委員会として国際的に発信することが期待される教育情報の項目の案をとりまとめでいただくこととしております。

大学ポートレートの運営の改善あるいは国際発信に向けた取組を進めつつ、年明けの、2月あるいは3月に本運営会議を開催させていただきまして、ステークホルダー・ボードの意見を踏まえた大学ポートレートの今後のあり方、あるいは改善、改修でどのようなことに着手していくべきかということにつきご審議いただきたいと思っております。また、国際発信項目についてもお決めいただきまして、その際に、国際発信において、既存のウェブサイトとの役割分担や大学ポートレートが担う範囲もご審議いただきたいと考えております。

日程等につきまして、後ほど調整をさせていただきたいと思っております。改めてご案内をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

**【鈴木議長】**

それでは、本日は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —